

学校教育学部

急激な社会変化に
対応する教員養成

学校教育学部
自己点検・評価委員会
委員長
黒田耕誠



学校教育の

高度化・多様化と改革

学校教育学部は、広島大学の前身校の中で最も古い広島師範学校以来の教員養成の伝統を担っている。現代の科学技術の進歩と経済の発展を契機に社会は急速に変化し、学校教育の改善が強く求められた。この要請に対応して、昭和五十三年、教育学部東雲分校は学校教育学部と改組され、社会変化に対応する専門性と総合性の統合に立つ研究と教育を進めてきた。今回の「広島大学白書1」の副題と軌を一にしていることになる。

学部発足時から「将来計画検討委員会」が設置され、学部・研究科の理念・目標及び使命、教育・研究・管理・運営等の基本的事項の検討や見直しを行ってきた。

自己点検・評価の
経過と問題点

その後、大学設置基準等の改正に伴い、本学部・研究科においても、平成三年十一月「将来計画検討委員会自己

点検・評価システム開発検討専門委員会」が置かれ、自己点検・評価の事項・項目の検討を始めた。関係文献や他大学の報告書を参照するほどに、膨大な範囲にわたるのに啞然としたのを思い出す。
教員養成系にふさわしく集約する作業を度々重ねることになった。

裕の無いことが一番の障害となった。
そうした事情から、学部構成員全体に作業趣旨が徹底しなかつたり、各グループの提出した書類の分量・様式がまちまちで、これらの全体調整を受け持った小委員会は、幾度となく夜が白むまで作業を強いられた。

成果と課題

そうした折、「教育研究整備基本計画検討委員会答申」(平成四年三月)が全学に配布され、五月には評議会で「広島大学自己点検・評価規程」が承認され、それを受けて本学部の「自己点検・評価委員会内規」が六月に施行された。上述の委員会に代わって、新委員会委員の選出、そして全学の自己点検・評価委の出した事項・項目とのつき合わせが始まった。事項の柱立てが違っていたので、可成りの時間を必要としたが、いずれ全学委へ回答することを考えて作業を行った。

本学部の報告書が完成(三月末)・配布された後、各講座、各種委員会からの改革提言が多出している。これらを生かす方向性は、日本の教員養成系大学を代表し、国際社会に寄与し得る「教育実践学」の博士課程の設立に資するということである。

本学部・研究科「自己点検・評価委員会」は十七名で構成されていたが、作業を進める際は、五グループに分かれ、アンケートを含む資料収集やその検討に当たった。なにせ多くの委員にとって初めての経験であり、時間的余

学校教育研究科においては、昭和五十九年四月以来、既存の教育専門諸科の統合化を図りつつ、学校教育のみならず家庭教育や生涯教育など、多様な分野における教育実践にかかわる高度な専門性を有する人材養成を目的とした教育実践学の確立を目指す博士課程の設置実現に向けて検討を重ねてきている。

部局名	報告書名	ページ数	刊行(予定)時期	部局名	報告書名	ページ数	刊行(予定)時期
総合科学部	総合科学部自己点検評価報告書1993	209	1993.8	医学部	医学部・大学院医学系研究科白書1993	36	1993.5
文学部	新しい知の探究—文学部・大学院文学研究科自己点検評価の記録	290	1993.8	医学部附属病院	医学部附属病院自己点検・評価報告書	30	1993.5
教育学部	教育学部・教育学研究科自己点検・評価実施報告書	約200	1993.10上旬	歯学部	歯学部自己点検・評価報告書	234	1993.3
学校教育学部	学校教育学部の現状と課題	105	1993.3	歯学部附属病院	歯学部附属病院自己点検・評価報告書	175	1993.3
法学部	未定			工学部	移転10周年記念自己点検記録	354	1992.3
経済学部	経済学部自己点検・評価報告書	約200	1993.12	生物生産学部	大学院生物圏科学研究科自己点検・評価報告書(学部、進行中)	122	1993.9~10
理学部	理学部・理学研究科自己点検・評価実施報告書	140	1993.3	原爆放射能医学研究所	原爆放射能医学研究所年報第34号	15 (213~227ページ)	1993.8

自己点検・評価報告書刊行状況